

NEWSLETTER

SEP. 2025

ISSUES #5

当社の旬な話題をご紹介します
大気社ニュースレター
発行元：株式会社大気社 経営企画部
広報・サステナビリティ推進課
連絡先： mailmast@taikisha.co.jp

協力会社と共に未来を拓く—TPG



今年1月30日、当社の協力会社団体「Taikisha Partners Group (TPG)」が発足しました。旧・安全衛生協力会や工事部会を発展的に統合し、大気社と協力会社が共に成長するための新たな組織です。協力会社と当社が一体となることで、持続的な発展と次世代につながる価値創造を目指していきます。

力を合わせて一網打尽！大気社と協力会社、ご家族が砂浜で地引網に挑戦

浜辺でひとつに
地引網で深まる絆

9月7日、片瀬西浜・鵜沼海水浴場の浜辺で大気社と協力会社の従業員、ご家族など約180人が集まり、ビーチクリーン活動と地引網に挑戦しました。大きな網を力を合わせて引く姿は、まさに一致団結の象徴。その後はバーベキューを楽しみながら交流を深め、世代や会社の垣根を越えた笑顔が広がりました。懇親を深めるだけでなく、協力し合い課題に立ち向かう私たちの姿勢を実感できるひとときとなりました。



TPGのイベントで砂浜に広がる笑顔の輪
大気社と協力会社、そしてご家族も一緒に

TPG発足の背景と目的
時代の課題に応える新たな連携の場

TPGは、協力会社と大気社が直面する共通の課題に応えるために設立されました。設備業界は急速な高齢化や担い手不足、残業時間の上限規制、生産性向上の要請、大規模化するプロジェクトへの対応など、かつてないほど多くの課題に直面しています。従来は各地区ごとの安全衛生協力会や工事部会が活動を担ってきましたが、個別の取り組みでは限界が見え始めていました。

こうした状況を背景に、これまでの活動を発展的に統合し、全国規模での横のつながりを持つ新たな組織としてTPGが誕生しました。大気社と協力会社の関係は1930年代の「建友会」に始まり、長年にわたり施工体制強化に寄与してきた歴史があります。TPGはその歴史を継承しつつ、現代の課題に対応する新しい協力の場として、安全衛生管理規則の徹底や事故防止、健康保持を推進。さらに品質や生産性の向上、人材育成にも取り組み、協力会社と当社が一体となって持続的な発展と次世代につながる価値創造を目指していきます。

活動の柱と今後の展望 人材育成から品質・安全まで広がる取り組み

TPGの活動は「人材・品質・コスト・安全衛生・インセンティブ」の五つの柱で構成されています。

- ①「人材」：施工・製造の基盤を支える人材の確保と育成を最重要課題と捉え、教育研修や採用支援を通じて人材を育成します。また会員同士の交流により、現場で培った知識や技術を共有し合うことで、各社の課題解決を後押しします。
- ②「品質」：大気社がグローバルに展開する上で品質の維持・向上は生命線であり、環境負荷低減や最新技術の導入を通じて継続的な改善を推進します。
- ③「コスト削減」：新工法や省力化工法の採用により、効率化と競争力の両立を図ります。
- ④「安全衛生」：安全パトロールやヒヤリハット事例の共有を通じ、事故を未然に防ぐ仕組みを強化。災害補償制度を整備し、会員が安心して活動できる基盤を整えています。
- ⑤「表彰・インセンティブ」：成果を正しく評価し、モチベーション向上を促進します。

今後は資格取得や講習会など学びの機会を拡大し、協力会社と大気社双方にとって価値ある団体を目指していきます。



TPG設立総会の様子
真剣なまなざしで今後の方針に耳を傾ける参加者



現場を巡回し、安全を一つひとつ確認するTPGの安全パトロール

協力会社と共に歩み、 新時代を築いていきたい

▶TPG発足の背景を教えてください。

「昨年来、全国の協力会社を訪問すると、『人材が不足している』『後継者がいない』という声を多く耳にし、また協力会社の数自体も減少傾向にありました。一方、こうした状況のままでは当社も安定した施工体制の維持が難しくなるという危機感がありました。当社は協力会社なしには成り立たない業態です。そうした背景から協力会社と当社の思いが一致し、TPG発足へとつながりました。」

▶大気社としてはどのような活動を推進したいですか？

「資格取得や技術講習といった“学びの場”を充実させ、協力会社の皆さんに実益を感じてもらえる活動を進めたいと考えています。教育研修や採用活動のサポートも含め、協力会社の課題解決に役立つ仕組みを支援し整えていきたいです。」

▶最後にメッセージをお願いします。

「TPGIは、協力会社と大気社が一体となって未来を築くための重要な取り組みです。今後も率直な意見交換

を重ねながら、より良い環境を整え、共に業界全体の発展に貢献していきたいと思います。」



久保田 康三
執行役員
環境システム事業部
技術統括部長